

## 第1回 広陵町政策推進審議会 議事要旨

I 開催日時 令和7年10月8日（水） 午後1時00分から午後3時30分まで

II 開催場所 リレーセンター広陵3階 大会議室

III 出席者

<委員> 11人（欠席1人）

窪田委員、清水委員、石川委員、杉本（洋）委員、杉本（雅）委員、辻委員、藤山委員、西川委員、藤田委員、松村委員、渡辺委員

<事務局> 7人

吉村町長

企画総務部 藤井部長

総合政策課 芝課長、岡崎、河井

フォーティエヌスコンサルティング株式会社 高橋、蛇川

IV 次第

1 開会

2 委嘱式

3 町長あいさつ

4 審議会会长及び副会長の選出

5 委員紹介

6 質問

7 議事

(1) 総合計画更新の概要及びスケジュールについて

(2) 総合計画更新に係る骨子案について

(3) 住民アンケート結果概要について

(4) 前期基本計画における指標達成状況について

8 その他（次のスケジュール等）

9 閉会

<配布資料>

資 料 1：広陵町政策推進審議会委員名簿

資 料 2：広陵町政策推進審議会について

資 料 3：総合計画（中期基本計画）骨子案

資 料 4：住民アンケート結果概要（速報値）

資 料 5：前期基本計画における指標達成状況（一覧）

参考資料 1：広陵町政策推進審議会設置条例

参考資料 2：総合計画と各個別計画の関連図

当日配布資料1：広陵町政策推進審議会総合戦略部会設置要綱

当日配付資料2：前期基本計画からの人口推移について

当日配付資料3：政策マネジメントシート及び政策立案マネジメントシート(参考)

## Ⅴ 議事内容

### 1 開会

### 2 委嘱式

○新委員への委嘱状の交付

### 3 町長あいさつ

改めまして皆さんこんにちは。広陵町政策推進審議会を開催していくに当たり、本日委嘱をいたしました委員には町の最上計画である総合計画の更新に当たり審議いただくとともに、これから広陵町が効率的かつ効果的な行政運営を行うことができるよう行政評価や行政改革についても審議いただくようお願いいたします。なお、委員の委嘱期間は2年間となっております。本町がこれからも自然豊かな人のやさしさに触れることができる魅力ある町として発展を遂げ、将来にわたり持続可能な町となるよう皆様のお力添えと活発な検討をお願い申し上げて私の挨拶とさせていただきます。皆様どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

### 4 審議会会长及び副会長の選出

○窪田会長、清水副会長を選出

### 5 委員紹介

### 6 諒問

(町長)

広陵町政策推進審議会設置条例第2条に基づき次の事項について審議会の意見を求める。1.総合計画の策定に関するもの。2.総合戦略の作成に関するもの。

#### 会長あいさつ

それでは一言だけ申し上げる。常に社会は変化しているが、昨今急速な変化が起きているのは皆様が感じているとおりである。そのうちの一つはのちに確実視されている人口減少であり、様々な分野で人手が不足しており、現状維持が難しいと感じざるを得ない。私の仕事として高校や大学、大学と中学小学校の連携を行っている中でも子供たちの急速な減少を感じざるを得ず、様々な分野の仕事の働き手、農

業等の一次産業の担い手が激減しているということを感じざるを得ない。また、AIなどデジタル技術の急速な実装が進んでいると思う。大学や研究の世界でもAIをどのように使用しているか明記しない問題もあるが、こうした急速な変化に適応することが必要かと思う。全国的に見ても一斉に急速に人口が減るわけではなく、高齢化が急速に進む地域・無居住が懸念される地域とそうでない地域がある。

広陵町にはこうした仕事で来ており、来るたびに新しい家が建っていたり、実り豊かな田畠などがあったりと魅力があるが、こういった街にはこの地域を発展させるだけでなく他の地域を地域居住等で支援する余力を持っていただきたいと思っている。こうした急な変化が求められている中、自治体だけが行うものはないが、基礎自治体として総合計画を策定し、その中に地方創生が含まれるようなところが重要かと思う。

吉村町長が就任された相当良い時期に中期計画を定めることとなり、一層気を引き締めてまいりたいと思う。総合計画は、社会の力を合わせてこの地域がどうしていくべきか、どのようなスケジュールで行うかということを示す計画であり戦略であると思うし、住民皆様に街の取組に参加・協力していただくためにも重要であると思う。また、それぞれの仕事、会社や自営業の仕事の中で協力していただくにも町が何を行おうとしているのかということを示すことは大変重要なと考える。先ほど吉村町長の挨拶にもあったが、行政評価等もしながら成果を重視しつつ達成度合いを測り、成果を示していくなど様々な課題があると思う。そうしたなかで今年度の10月に開始ということで職員・委員の皆様、大変多忙な中集まっていた。力を合わせて副会長の力も借りつつ総合計画を策定してまいりたいと思うので、皆様お願い申し上げる。

## 7 議事

### (1)総合計画更新の概要及びスケジュール、(2)総合計画更新に係る骨子案について

○事務局より資料2、資料3、参考資料1、参考資料2に基づいて説明

#### 【資料・説明を踏まえたコメント】

(B 委員)

前回（前期基本計画策定時）から多くの方が入り取りまとめていただいたが、住民の方が見やすい総合計画になってきたかと思われる。今後多くの方々が見て少しでも理解を深められるような議論をしていきたいと考える。

#### 【質疑応答】

(C 委員)

引き続きこのような立場で審議会に参加させていただきたい。微力ながらこのような形でかかわらせていただきたい。質問としては町長の主体的に進めていく政策

の中で民間交番という言葉があったかと思うが、これまでの実績があるのか、これから取り組むものかを確認させていただきたい。

(町長)

民間交番については町内ではこれまでにない取組である。個人若しくは青少年健全育成協議会、地域安全推進委員さん等一部団体で自発的に防犯していただいているが、これを網羅的に行うため設置したいと考えている。そして、民間交番というものを見せる活動として行わせていただきたいと考える。空き店舗や空きスペース等を活用できればと考えている。

(D 委員)

全国的な例もあり、20年ほど行っている地域もある。

(E 委員)

いろんなビジョンで見せていただいたが、学校給食無償化・民間交番等の取組において、吉村町長の思いといったところを案として出していただきたいし、住民の意見等を受け入れていただきたい。

(F 委員)

広陵町はやはり大阪に就職してしまう。新しい人が入ってくるという特徴もあるため、町内でパートを雇うといった取組等を行っていきたいと考えている。

### (3)住民アンケート結果概要について

○資料4に基づいて説明

【質疑応答】

(G 委員)

詳細に説明いただき感謝申し上げる。今後ということも含めて2点ほど質問・コメントがある。単純集計と前回のものとの比較という説明だったが、クロス集計等さらに詳細な要因分析をする予定はあるかということと、わからないという回答の比率が高い項目について、聞き方の問題であるのか理解を助けるようなアシストが必要なものなのかといったところが気になったところである。

(事務局A)

質問感謝申し上げる。順次進めるという回答になる。基本属性のクロスと設問間クロスも行う予定になっている。わからないという回答がどちらともいえないという理由で付けられている場合とわからないからわからないと付けられている場合があり測りかねるところはあるが、原因と結果のわかるクロス集計を行うことによってなるべく判明させたいと考えている。私からは以上である。

(事務局B)

先ほど事務局Aからも説明があったが、居住地や年齢・職業など細かい部分からもクロス集計をさせていただきたいと考えている。今回居住地別のP.2問4広陵町

の地区のお住まいの状況を確認しているが、今現在実施されている国勢調査を踏まえそれぞれ地区別のアンケート集団の母集団を割り振っている関係上地区別の人ロ割合と類似した回答比率となっていると考えている。また、G委員から質問があつた「わからない」という回答のところなのだが、前回の調査を踏まえる必要上わからないという項目をつけさせていただいている。ただ、満足・不満足に対してわからないと回答されている方が多いことから日常生活上関わりがないためわからないという方が多いかと考えられる。わからないと回答された方でも自由記述を記入されている方も多くいるため、これからその部分の分析を行っていきたいと考えている。

(D 委員)

一つ質問をさせていただければと考えているが、前回調査に比べて男性の回答が増えていて、75歳以上の方が増えており、短期間でまとめていただいたとは思うのだが、これが全体の回答の傾向に影響を与えていたと考えられるがそれをどう考えられるのか。全体的にまとめたものとして結果を出していただいたことに価値はあると思うが、多くの高齢の男性の方が回答したということが結果に大きな影響を与えていたと考えるがいかがか。

(事務局 B)

ご意見感謝申し上げる。冒頭説明させていただいたのだが今回アンケートはサンプル調査という形で実施をさせていただいた。母集団は2000人の方を選定させていただいた。住民基本台帳から無作為抽出としているのだが、先ほど申したように、広陵町の人口特性、居住地特性を前提とし、無作為といいながら広陵町に見合ったような母集団の選定としている。回答は男性が多いということが意外ではある。女性の方に送った場合でも男性が回答したということもあると考えられる。無作為に抽出したにしては男性が多いことに驚いているというところではある。

(D 委員)

回答感謝申し上げる。サンプル形成の不思議なところだと思う。実際答えてくださった方が少し偏っているのではないかとは正直思われるが、回答くださった方が真摯に協力いただいたということは大変ありがたいと思う。結果としてはそういう色合いが強いかなと思う。

(H 委員)

2点質問がある。町外等からの移住を支援する取組が不十分という不満が多いと思う。町外から移住している方は多くいるため、町外からの移住を支援する取組とはそもそも何なのかということが一つ。もし移住を支援する取組が不十分であるという子育て支援施設の数や規模が不十分というのがリンクしているのかどうかということ、待機児童問題は、広陵町にはないとしているが、本当にそうなのかどうか

ということについて、もう少し具体的にわかっているのであれば答えていただきたい。

(事務局B)

まず移住等についてだが、町外からの移住者が多いというのが現状である。以前北葛城郡4町で移住定住施策をしており、その際には三世代補助金、空き家を活用した住む場所の紹介といったところを行っていたが、大阪のベッドタウンというところもあり、行政がそのような施策を打たなくとも民間事業者が住宅を建設する、空き家を活用して提供するといったことを行っており、うまく施策と成果が結び付かず、ボリュームダウンさせたという兼ね合いがあるのかと考えている。

もう1点、子育て支援施設の数や規模が不十分といったところについては、公園等についてはしっかり整備できているのかなと考えている。問題は例えば現状雨の日に過せるところは図書館くらいしかないとかと考えている。図書館の利用者が昔とは変化しており、高齢の仕事を引退された方が日中にいらっしゃることが多いようであるため、土日に子供たちが騒いでいると、図書館であるため静かにして欲しいという苦情が来ていたりするということであると思われる。

H委員がおっしゃられていたとおり、学童保育は昨今充実してはいるのだが、不足していた時期があったため、その部分の影響が出ていたためはないかと考える。

(A委員)

かなり詳細な分析をしていただいた。先ほど問1で男性の回答が多いというものとなっており、さらに、年齢層75歳以上の部分も25%となっているところがいびつかなと思うため、その年齢層でどういう傾向で回答が行われているか等、別に説明をしっかりと行っていただきたい。

(事務局B)

今後しっかりと分析した上で説明していきたいと考えている。

#### (4) 前期基本計画における指標達成状況について

○事務局より資料5に基づいて説明

【質疑応答】

(D委員)

では私から、この指標の達成状況の最終的な公表はどのような形になるのか。

(事務局)

現在基本目標毎に指標の達成状況を表記している。しかしながら12年で達成していくものもあり、達成しているべきかという議論もあるため、部会で担当課長に出席していただき、委員の皆様に判断していただきたいと考えているため引き続きよろしくお願い申し上げる。

(D 委員)

私の意見としては見せ方が重要だと考えている。達成されているものも多くあるが達成状況が見えにくいと「わかりにくい」と住民が思うと考える。同じ情報であってもデザインを工夫して見せていく必要があると考える。車のダッシュボードのように一目でわかるような形にしたらよいと考える。例えば矢印を上下ではなく斜め上、斜め下の方がわかりやすいのではないかとも思う。マルであるが課題があるものや、バツではあるがおおむね計画通りであるもの等の伝え方があると思われる。今年はまず計画を作るということが重要であるため、来年度以降にはまた評価のところで工夫できたらよいと考えている。

(G 委員)

詳細に説明いただき感謝申し上げる。今後部会の中で担当の方と評価も含めて議論が進むということであると伺っているため、そちらを期待したいと思うのだが、三つ感想めいたことをお伝えしたいと思う。

1点目は評価の仕方について達成状況と合わせて10が9になったらバツというかバス路線が一つ減ったらバツとなっているがそのような評価に沿うものとそぐわないものがあると感じている。二つ目は、先ほど説明があったところだとは思うのだが、男女共同参画社会の部分で測定せずとなっていたところはどうするのかということである。もう一つは、数量で評価するものと比率で評価するものもあるのだが、数量で測ると社会経済状況の変化で大きくずれてしまうところがあると考えるため、そこが気になっている。

資料の差し替えが間に合っていないのかもしれないのだが、例えばP.16 施策の4-6の地域福祉の充実という箇所の展開方向1の支え合い助け合う地域づくりの推進というところで、ボランティア登録しているグループ数が30あるのに対して個人の基準値が10で現状が11となっているが、グループよりも個人の方が少ないという状況はどうなっているのかというところについて説明いただけたと幸いである。お答えできる範囲で、部会で対応するという回答でもよいためお願いしたい。

(I 委員)

事務局に代わり答える。ボランティア登録しているグループの方が個人の人数に入っていないという認識になっている。そのような形で理解いただけたらよいかと思う。

(事務局 B)

ご意見感謝申し上げる。前回審議会の冒頭で説明させていただいたが、政策立案マネジメントシートを職員で作成し、そちらで設定した指標を審議いただいたという形になっている。前回は、プロトタイプ的に行政評価の例を見ながらどのような指標が適切なのかということを事務局と担当者で協議させていただいたが、アンケ

ートでしか拾えないため、主観的な満足度的なものと先ほどG委員からおっしゃつていただいた物理的な量を判断するところというのが成果指標・活動指標のところで混在していると思うところがある。総合計画的にはいわゆる活動指標ではなく、10年後に行動変容が行われているのかという活動指標を重視して成果指標の設計をしていく必要があるだろうと考えている。前期の指標も踏まえて改訂したいと考えている。部会の方で意見をいただけたら対応させていただきたいと考えている。

## 8 その他（次回スケジュール等）

- ・委員への報酬について
- ・次回以降の日程について（12月を予定。会議終了後、正副会長と協議）
- ・議事要旨及び資料の公表について

## 9 閉会

（以上）